

祈願いたしましたして筆を止めさせていただきます。本当に有難うございました。

今年への期待

北海道博物館協会

会長 中川 敏

(札幌市円山動物園)

会員のみなさまにはお変わりなく新しい年を迎えられたことを、心よりお慶び申し上げます。

昨年来、暗い世相を呈しておりますが、七八年に対し、それぞれのご抱負と、ご期待をもっておられることと存じます。会員の当面の問題として語られてきた、予算がたりない、スタッフ(学芸員など)がたりない、施設がないなど、次々にだされた問題点や悩みをかかへ、これらを一一つ一解決すべく日常努力をかさねているわけです。

この状態のなかで、博物館の運営に、活動につとめ、数年来の懸案であった学芸職員部会も発足し、今年の活動が期待されている。

今年には数町村において、博物館、資料館などの建設が予定されていると聞いています。

道博協が益々発展し、道民にしたいまれ、利用されるよう博物館活動を実施したいものと思っております。

北海道立近代

美術館の活動

(昭和五十二年十月受理)

北海道立近代美術館は、この七月二十一日、記念特別展の「ミュンヘン近代美術展」と新収藏品展「北海道の美術」で開館し、その第一歩を踏み出した。

幸いに道民の大きな関心と期待がよせられ一ヶ月間に十万人の来館者を数えた。

展示室は、メインホールをはさんで左側に常設展示室(一階一〇九三・五㎡、二階六八三・四㎡)、右側に特別展示室(一〇九三・五㎡)がある。常設展示室では、①北海道

品を、逐次展示替えしながら公開展示している。

なかでも、二階のガラス工芸、海外の美術—ジュル・パスキン、版画の各コーナーは、特色あるコレクションとして、内外の美術館から注目されている。

昭和五十二年度の展覧会事業は、「京都の美術」(九月二十四日—十月二十三日)、「第一回北海道現代美術展」(一月十一日—二月十二日)、「神田日勝展」(二月十八日—三月十日)を企画し、特別小展示として、「エコール・ド・パリーの周辺の作家たち」、「ピラネージ版画展」、「江戸の泥絵展」、「子どものための美術館」が催される予定である。

展示室内におかれた映像機器には、デッサン、下絵、作家の紹介などのスライドが見られ、鑑賞をたすけるとともに、美術への関心を高める努力をしている。

の美術、②日本近代の美術、③海外の美術、の三本柱で収集された九〇〇点余の収蔵作

展示室内での解説活動は、毎週土曜日二時から「展示室講話」を、日曜日二時から「作

品解説」を実施しているが、心も次第に高まりつつある。これに寄せられる来館者の関



展示室講話とは、毎週異なるテーマでスライドや、ヴィデオ等の映像も併用し、およそ三十分間学芸員の研究成果を解りやすく講話するものである。

来館者は、椅子に腰をかけ、展示作品も鑑賞しながら講話を聞くことができ、好評を得ている。

こうした解説活動も含め近代美術館が重視しているのは、美術への理解を深め、来館者を増やしていくための教育普及活動である。

二四〇席をもつ講堂では、座談会、講演会、映画会、美術講座が行われている。これら催し物は、土曜、日曜日二時からとし、しかも複数のプログラムが同時に開かれ、来館者の選択の幅を広げている。

この他講堂では、団体の来館者に対しスライドを用いてオリエンテーションを実施している。

また、三台のプロジェクトによるマルチスクリーンシ

ステムは、美術の解説を一層具体的にし、比較対照を容易にすることになり参加者の興味と関心を一段と高め好評を得ている。

映像室、造形室では、美術に関する講座を行う他、十月五日から「婦人美術講座」が開講されている。これは将来の美術館ボランティアを養成する目的で開かれたものだが、また市民大学（コミュニティ・カレッジ）的性格も有し、

来春三月まで二十回実施される。美術質問コーナーも、予想以上の利用がある。

毎週水曜、土曜、月曜日の午後一時から三時まで、学芸員が応対しているが、次第に専門的な質問も増え、職員と来館者の対話の場が拡がりつつある。

近代美術館は、だれもがいつでも気軽に楽しみながら学べるレジャーセンターとして構想されているが、前庭、ホール、ロビーのくつろげる空間と、食堂、幼児室、

その発表者と発表要旨は次の

売店等のサービス施設は、美術館活動と有機的に結びついて、その一役を担っている。ともかく、近代美術館は好調裏に歩みはじめたというところである。

（北海道立近代美術館）

昭和五十二年度

（財）日本動物園水族館協会総会並びに協議会の開催について

国内の動物園六五園、水族館四五館合せて一一〇園館が加入組織している、本協会の、昭和五十二年度総会並びに協議会が五月三十一日から六月二日にわたって札幌市において行なわれました。この会議では、予算案、決算の審議のほか、協議会においては動物園水族館が当面する問題や将来にわたる諸問題について活発な意見交換が行なわれました。特に、「明日の動物園水族館」のテーマのもとに、動物園水族館の教育活動についてシンポジウムが行なわれたが、その発表者と発表要旨は次の

とおりであり発表後、全員にして日常の活動が常に行われより、動物園、水族館の教育活動について大いに討論されました。

一、特殊動物園として

の教育活動

のぼりべつクマ牧場
場長 加 森 公 人

さらに、単種動物園としてヒグマのセンター的役割をも受け持っている。

のぼりべつクマ牧場は、次の目的をもって設立され、単種動物園として特殊な存在である。それは、現在北海道に生息し、原始野生の状態で見守られている大型猛獣のエゾヒグマを、①その生息地で生きる限り野生の状態そのままの姿を、広く一般の人々にも観察できる場を提供すること。②フィールドでの困難性から遅れている研究の場を提供すること。③現在害獣として駆除の対象とされているが、自然保護の見地に立った種族保存を行なうことなどである。

教育活動においても、この特殊性を充分生かしたものでなければならぬ。つまり生息地に設立され、研究の場とする。

このような考えを基に、現在までのクマ牧場での活動と現状を紹介し、特殊動物園の今後の方向を究めていきたい。

二、職員教育

江ノ島水族館
館長 広崎 芳次

動物園や水族館における教育は、学校教育とことなっており、生涯教育として扱われる。幼児から老人までを対象とした教育を、つぎの三つに大別することが妥当と考えてもよいのではなかろうか。まず幼児や小学校低学年児童を対象とした情操教育的なもので、この教育にたずさわる者としては、動物園や水族館に勤務している全員が教師として行動することが望ましい。すなわち高度の知識よりも自然保護に徹した態度、行動が要求されるからである。常時動物園や水族館に勤務しているものは必要となるものと思われる。このためには、幹部職員に相対する人達は十分な技術と経験のほか、相手を専門的

門の人にたずねるようによく教育することが大切である。初歩的な教育活動は全員が担当するということにより、全員の意識の向上につながり、同時に観客へのサービスとなつて普及業務にも役立つ。ついで小学校高学年から中学生を対象にした教育がある。これが現在の動物園や水族館における教育の主体であると考えられる。サマースクールなど、いろいろの教育活動がこれらの人達を対象に行われている。この場合の教師としては、専門職としての飼育担当者が該当するが、これらの人達が、ただ自己の体験にもとづいての教育をするのではなく、飼育ハンドブックなどをよく読み、理解しているようにつとめることが望ましい。最後に高校生以上の人達が満足するよう、高度の教育内容が明確の動物園と水族館において必要となるものと思われる。

に理解納得させることのできるだけの学力があることが望ましい。また、待遇も大巾に改善されるべきものと思われる。現実には難問が山積していても、それを解決する努力の積み重ねによって教育活動も活発化し、動物園や水族館の繁栄につながるものと思われる。

三、動物展示と普及業務

名古屋市東山動物園
園長 寺 沢 竹三郎

動物園を訪れる人は、「動物学の勉強」「教育効果を得る」ための来園は少ない。一方、動物園は生きた動物をコレクションした、博物館に準じる施設である。このコレクションを観覧することにより、自ら知らず知らずの中に動物知識を得て、自然保護、動物愛護思想の普及に貢献している。動物園の教育は、一・自ら学んでもらう、二・積極的な指導、この二通りであり、普及業務はこの二綱により運営

されなくてはならない。そのためには、動物の展示は教育活動のポイントであり、展示計画、動物の見せ方は普及業務の最も重要な課題である。その展示は系統的であり、理論的でなくてはならない。リーフレット・説明板の充実も欠かせない存在である。

各種のよい面を持つ動物園

の環境の中で、動物知識の向上、社会教育に資するよう積極的な活動が必要であり、それは、一・来園者教育、二・園外活動(友の会育成・会誌の発行)も欠かせない普及活動の一つである。

なお、催しものは動物関連のものであり、自然保護に役立つものでなくてはならない。また、子供動物園は動物に接する窓口として、幼児・小学生が自ら学び、そして生物の生命現象の理解を深め、生命を尊重する態度を育てるような場なくてはならない。そのためにも、充実したものでなくてはならない。

総じてまとめると、動物展

四、今後の展示資料

大阪市天王寺動物園
園長 中川 道朗

今、動物園は、「見る」動物園から「知る」動物園に変革を迫られている。

過去永年にわたり、動物自体の持つ愛らしさ、珍らしさ等々から数多くの市民から愛され、親しまれてきた。そして又、「生きた図鑑」として科学する心の芽を育ててきた。

しかし、地球を覆う環境破壊が進むにつれ、人々の自然への認識が深まり、当然同じ生物である動物たちへの関心が、その視野を広げた。

これに正しく対応するためには、我々自身のより一層の研究が強く要求されるのであ

るが、この問題はさておき、
 当面、如何にこれらの声に
 応すべきか、その一端を考
 えてみたい。

五、これからの子ども

動物園

愛媛県立道後動物園

園長 重 見 貢

私は、従来行われている園
 内活動として、サマースク
 ール・ガイドツアー・講演会・
 映画会・探訪会の他に特に展
 示館の中広い活動を今後に期
 待したい。展示館そのものの
 施設は、多くの水族館は勿論、
 幾多の園で有効的に利用はさ
 れているが、従来は、ややも
 すれば剝製展示ぐらいで終つ
 ていたのではないか、切角生
 きた教材が数多く展示されて
 いるのだから、この実物を基
 にして、巾広く知識を普及し、
 ひいては愛護の心を高揚し、
 自然への正しい目を開く扉に
 すべきではないか、このため
 に展示館の設立並びに、この
 有効利用を強く強調したい。

一、環 境

十分な日光と緑と花にと
 み、落葉樹と食餌本草を植
 栽して、野鳥や蝶等が集ま
 る配慮が望ましい。

二、施 設

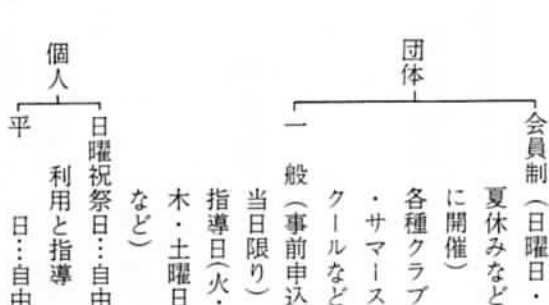
獣舎・運動場・交流の場・
 講堂(休憩・視聴覚・放送
 器機・資料展示場)・砂場・
 遊具・便所・手洗場などの
 配置が、安全性と子どもの
 夢を呼ぶにふさわしいもの
 であること。

三、動 物

やさしい動物であること。

四、利 用

団体と個人、日曜と平日に
 区分



自由利用の場合は、幼児
 は保護者の同伴を要し、指
 導者は係員のほか日曜祝祭
 日は、ボランティアの協力
 をうけるようにつとめる。

五、指導(利用)内容
 年齢などに応じたメニ
 ューをつくって指導する。
 (1)動物の生態等観察
 (2)えさのやりかた
 (3)動物とのふれあい
 (4)乗 馬
 (5)映写パネルなど指導
 (6)搾乳哺乳剪毛手入
 (7)ふ化育すうなど展示
 (8)指導者講習会
 (9)ペットなどの飼い方(す
 ず虫幼虫配布など含む)
 (10)利用マナー指導
 (11)その他
 六、指導者
 (1)専任係員
 (2)ボランティア：学生・先
 生・青少年育成ボランテ
 ィア・一般社会人など。

六、教材としての飼育動物

広島市安佐動物公園

園長 小 原 二 郎

●問題の背景
 動物園が収集し、飼育し、

展示する動物の種類あるいは
 数については、すでに諸先
 輩の考えや基準が公表され
 ている。そして、これらを
 参考に今日の動物園をふり
 かえれば、それぞれに充分
 な機能を果しているように
 考えられるが、動物園のも
 つ教育的役割に対して、系
 統的に利用できるか否かに
 ついては、討議された例が
 少ないように考えられる。
 ●教材としての見直し
 飼育動物を教材として活
 用するために必要な種ある
 いは点とはどのような基準
 によって判断すべきである
 うか。
 それは、園ごとの性格に
 よって教育の展開に差があ
 り、園の主張するところに
 より、動物地理学、分類学
 や適応放散のモデルなどに
 なるようなものでありたい
 と考えられる。
 ●現在ある問題点
 動物園が哲学的主張をし
 ようとするとき、動物園経
 営方針決定者の支持、動物

園経営当事者の理解、動物園利用者への衆知など、現時点では困難な問題が多い。そして、この難問を解決するには、現在の動物園があらゆる努力を重ね、動物園の社会的機能を、それぞれの地域社会において、正当に評価される活動をつづけねばなるまい。

北海道博物館協会学芸職員部会の設立について

昨年の清水大会において承認を得ておりました、本協会学芸職員部会の設立総会は、昨年七月二十八日開催され、役員の人選を終え、さる、五

十三年二月二十三日、協会役員会の承認を得て発会いたしました。部会役員は次のとおりです。お知らせします。

部会長 矢野 牧夫（北海道開拓記念館）

副部会長 武田 厚（北海道立近代美術館）

幹事 千代 肇（市立函館博物館）

佐藤 一夫（小牧市青少年センター）

亀谷 隆（北海道開拓記念館）

松浦 重信（富良野市郷土館）

山之内 統（上士幌町ひがし大雪博物館）

沢 四郎（釧路市郷土博物館）

金盛 典夫（斜里町立しれとこ資料館）

土屋 周三（樽市博物館）

越田賢一郎（道立三岸好太郎美術館）

- (1) 開催日 昭和五十三年六月二十九日（木）
- (2) 会場 富良野市 富良野文化会館
- (3) 大会テーマ 北海道における博物館・園のあり方
- (4) 分科会テーマ

- 第1分科会「社会教育施設としての博物館・園」市町村段階での資料館の建設
- 第2分科会「郷土館・資料館の建設」

新会員の紹介

- ◇団体。北海道立近代美術館 札幌市中央区北一条西十七丁目
- 旭川市三条五丁目 緑朗
- ◇個人。山下 緑朗

退会

旭山動物園
旭川市立天文台

北海道博物館協会役員

- 名譽会長 犬飼 哲夫
会長 中川 敏
副会長 石川 政治
理事 松井 恒幸
遠田 恭行
北川 芳男
米村 哲英
内海 量夫
山丸 武雄
倉 満
工藤 欣弥
三浦 徳四郎
小川 安久
矢野 牧夫
武田 厚
小松 三郎
佐藤 英介

北海道博物館協会顧問

- 顧問 片岡 新助
顧問 武内 収太
顧問 米村 喜男衛

事務局より

事務局をお引き受けしてから、早一年になろうとしています。この間、事務の不慣れから、なにかと会員の皆様にご不便をお掛けしたことを深くお詫びするとともに、今後において、道博協の発展と会員の要望に応えるよう微力ながら努力する所存であります。

又、この欄をかりて事務局職員をお知らせいたしますので、何かご用の節は、下記職員にご用命下さい。

- 事務局長 金森 裕
幹事 滝上 認
書記 松居 国男
電話(011)六三一四四